

○氏名： 宮原 道寿(ミヤハラ ミチヒサ)

○専門分野： Chemical Engineering

○合格年：2008 年 春

○使用した受験の参考書 & 問題集：

・参考書：

A) Chemical Engineering Reference Manual For the PE Exam. Sixth Edition, Lindeburg
あと、補完する意味で、Perry's Chemical Engineers' Handbook Seventh Edition の必要箇所を必要に応じて使用。

・問題集：

B) Chemical Engineering Solved Problems

C) Practice Problems for the Chemical Engineering PE Exam, 6th

D) NCEES の PE Chemical Sample Questions and Solutions (D が最も実際の試験に近い形式・内容だと思うので出来れば試験前に一度見ておくのが良いと思います。)

○準備期間と勉強方法：

・準備期間約3 ヶ月

参考書A の通読、問題集B、問題集C の計画的実施、実際の試験を想定した時間を計りながらの問題集D による最終チェック

※試験問題は各分野から決められた割合で満遍なく出るので、試験準備も特定の分野に偏らないように満遍なく実施したほうが良いと思います。

○受験会場に持ち込む資料の準備

○試験当日持ち込んだ図書

・Chemical Engineering Reference Manual For the PE Exam. Sixth Edition, Lindeburg

・Quick Reference for the Chemical Engineering PE Exam., Larry E. Wright

この他、Perry's Chemical Engineers' Handbook Seventh Edition の一部のページをコピーして綴じたもの

1. 受験動機

・情動的な動機： 米国赴任中にPE と仕事をする機会があり、PE の能力だけでなく、人柄や倫理観に感銘を受け、自分もかくありたいと思ったこと。

・実利的な動機： Engineer として米国内あるいは米国と関係した仕事をする機会が少なくないが、PE資格はこのような国際的な業務を進める上で有利に使うことができる。

・機会の訪れ： PE 登録のためのEducation とExperience の要件をなんとかクリアできそうな目処が立ってきたこと。

2. 受験生へのアドバイス

PE になるには、Education、Experience、Examination の3つの関門が存在しますが、この中で

Examination には良い参考書や問題集が揃っていますので、これらを使って学習を計画的に進めていけば何の心配もありません。私の場合、正直、Exam.は最も御し易い関門でした。PE のExam..はPE であれば当然持っているべき能力を確認するためのもので、PE なら解けなければいけない良問ばかりです。試験はOpen-Book 形式ですが、しょっちゅう本を開いて情報を探し回っているような状態では時間が足りなくなると思います。いろいろ持ち込んでも邪魔になるだけなので、持ち込みは基本的によく使い込んでいて必要な情報がすぐに探し出せるようになっている参考書 1 冊で十分だと思います。

Education とExperience については要件の満足にかなり苦労される方もいるかと思いますが、あきらめずに出来ることからコツコツとやっていけば、時間は掛かってもライセンスはかならず取得できると思います。Education を認めてもらえなくてもExperience をEquivalent Education とみなしてくれる州もあります。自分は工学部出身でなかったためEducation を認めてもらえず苦労しましたが、それでも最終的にここまで来ることが出来ました。